

中国語を学んで

牛島 由香里

必修で取らなければならないなら、身近だからアジアの言語を。最初はその程度の気持ちで選択した中国語ですが、徐々に興味がわきもっと勉強したいと思ったとき、その知的欲求に答えてくれるカリキュラムが全カリにはありました。

一年次の選択必修中国語では中国人留学生と日本人学生の対話を題材にしたテキストを用い、暗唱や対話練習を通して実践的な中国語を練習しました。物怖じせず積極的に声に出す、相手の言うことを聞いて理解する、という会話に重要な基礎をまずここで身につけられたように思います。

そこで中国語会話というものに興味を持ち、話せるようになりたいという目的に答えてくれるコースが全カリには用意されていました。1年次後期からコース選択制になり、より「聞く・話す」能力を高めることを重視したコミュニケーション・コース(COC)と、「読む・書く・聞く・話す」能力のバランスある習得を目的とした総合コースの2つがありました。会話ができるようになりたかった私はCOCに進み、

そこでは中国人の講師から学ぶことができ、ごく自然に中国の文化や実際の生活の話聞くことができました。

選択必修であるCOCが終わってからは強化科目(自由選択科目)を履修していき、中国語強化で会話能力の習得を進め、3年次からは中国語セミナーで時事中国語を学びました。今までの会話とは全く違い、辞書を引き引き中国の新聞を読み進めていきました。現在の中国や日本も含めた世界の情勢を中国語で読むことで時事問題にも詳しくなり、語彙力以上のものが身につきました。

全カリ中国語には異文化コミュニケーションの時代に即したカリキュラムがそろっていると思います。会話に時事、コミュニケーション。といった時、今や忘れてならない手段の一つはインターネットです。その点では中国語情報処理という科目がありました。そこで自分のパソコン上で中国語を扱うための環境設定の仕方を覚えるに加え、中国の学生のメル友を得るという貴重な機会を得ました。さらに、ネット上にはアクセスすらしたことの無い膨大

な情報がほとんどですが、その中で中国語のサイトにアクセスしてみようというきっかけを与えてくれました。

4年次からは中国語セミナーの会話も履修し、少人数で講師や他の学生の顔が見える授業を経験しました。テキストも実践的な会話が豊富で中国の学生とのメールでもこのテキストから使ったフレーズが数多くあります。全ての科目が複合的に絡み合っただけで私の知識の幅や視野を広げるのに役立ちました。

ただ、必修英語（COC）の授業でさえ英語のみの会話を徹底している講師の科目が多かったのに対し、中国語の科目ではハイレベルのクラスでも日本語が混じり、物足りなかったところがあります。もっと中国語のみに徹しても良かったのではないかと思います。

他に、異文化理解の講義である総合B群の「日中サブカルチャーの伝統と現代」がありました。これは日本と中国の文化を比較するという非常に面白い講義でした。京劇役者や歌舞伎、宝塚の人など学外の方からなかなか聞けない生の話を聞くことができ、日本と中国は互いに影響を与えあっていることを知り、共通する点や差異を考えることができました。他にも「アジアを知る」という講義で食文化を学んだり、音楽の講義で京劇の楽器について取り上げているものもありました。

実際に習った中国語を試してみたい

と思ったとき、それに答えてくれる中国への海外語学研修もあります。京劇や雑技、太極拳など中国の文化や人々の生活に触れ、盛り沢山のカリキュラムにより様々な経験をしました。ただ残念だったのは、日本での事前学習がオリエンテーションを除き、なかったことです。例えば週一のペースで現地の情報や心構え、研修のカリキュラムに必要な基礎知識を身につけるような講習があればより理解が深まったことでしょう。というのも、現地で見ただけの京劇や映画も内容が全くといいほど分からないということがあったからです。事前にその演目のビデオを見ながら解説を行う文化講習を受けたり、食文化や歴史について講義を聞いたたり、せっかくの留学という機会を現地だけではなく、日本においても勉強する良い機会にしたかったです。さらに、留学中に中国の家庭に数日間でもホームステイするような機会があれば面白かったのではないかと思います。

ですが、中国に関して総合的に学べるだけの豊富な科目があったということは非常にありがたかったと思います。さらに求めるなら、授業以外にも中国関連のイベント情報（文字通りのイベントや交流会、舞台、展示会など）を大学側から提供する体制があったら良かったと思います。自分で調べるだけでは気づかずに見逃し、残念に思うこともあったからです。大学側でそれらの情報を取得し、講師を通して学生

に紹介するようにしたり、情報提供専門のメーリングリストを運用したり、学内HPに掲載したりすることはできないでしょうか。学内の講義だけで閉じるのではなく、学生の興味や視野を広げることもできると思います。

全カリ中国語で学んだことを思い返してみると、言語一つとってもテキスト通りの勉強をただけでなく、実践的な中国語を学んだと思います。大学の講義で学んだこと、中国の音楽や映画などサブカルチャーを学んだこと、それらがきっかけとなりさらに自分自身で親しんでいったこと、留学での人との触れあい。多くのことを得て自分の視野を広げられたことが一番大きかったと思います。

今の私の職場には中国の方々もいらっしやいます。日本にきている中国の方々には日本語がお上手です。その時、物を言うのは中国語学習経験ではありません。相手の国のことに興味があり知りたいという姿勢がコミュニケーションを円滑にしてくれるようです。言語や文化を学んできたことでその方々との距離も近くなりましたし、相手に好感を持ってもらえたからです。そのような時、改めて言語はツールであるのだなと実感します。全カリを通して様々なことを吸収してきたことが役に立ったと思った瞬間でした。

これからの時代は中国語を話す方と触れあう機会は多かれ少なかれあると思います。大学の初習言語から始まっ

た私の中国語歴ではありますが、今の私に与えた影響は計り知れません。全カリは機会を活かせばたくさんのが得られる大きな可能性を秘めていると言えるのではないのでしょうか。

うしじま ゆかり

(本学文学部英米文学科2001年度卒業)